

【学級活動・小5・クラスのミニオリンピックをしよう】①

育成を目指す資質・能力

- (知識・技能) 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。
- (思・判・表) 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。
- (学びに向かう力等) 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

ICT活用のポイント

合意形成することの良さを実感し、自治的能力を育む上でポイントとなる考え方を効率的・効果的に共有する授業

【つかむ】

議題や話し合いの進め方を理解する一人一人が活躍できるクラスにするために、ミニオリンピックについて話し合おう

【出し合う】

「種目」と「工夫する点」についてシートに書いてきた意見を発表する

【比べ合う】

それぞれの意見のよい点や問題点について検討する

【まとめる】

折り合いをつけて合意形成し、その過程を振り返る

事例の概要

- 事前の活動において教師と計画委員(児童)で相談し、必要感のある議題を設定する。
- 議題「クラスのミニオリンピックをしよう」について、話し合い支援シートを活用して事前に全員が考えを書き、教師がコメントをするとともに計画委員と共有しておく。
- 輪番制の計画委員が進行し、実施する種目と工夫する点について話し合っ決める。

【事例におけるICT活用の場面】

- 話し合いの内容や進め方について「感想」や「気付き」を学習支援ソフトを活用してICT端末に入力する。
- 入力内容はウェブブラウザ上で提出することによって即時に全員で共有する
- 共有した振り返りを基に、教師が合意形成の上でポイントとなる考えをもっていた児童に問い返したり全体に解説したりする。

【学級活動・小5・クラスのミニオリンピックをしよう】②

【事例におけるICT活用場面】



視点を明確にした入力内容の共有

ポイント

本時の学習の振り返りにおいて、話合いの内容や進め方について「感想」や「気づき」を学習支援ソフトを活用してICT端末に入力し、ウェブブラウザ上に提出して共有した。効果的に活用するためのポイントは、入力内容を共有するときの視点を明確にすることである。視点として「合意形成の過程と関連付けて考える」「自分の振り返り内容との共通点や相違点を見いだす」「事後に実践の振り返りで再度活用する」等を示す。共通の視点に沿って入力することで、コメント共有機能の利点を最大限に生かすことができる。

効率的な考えの把握

メリット

本実践における児童や教師にとってのICT活用のメリットは、入力内容を即時に共有することで、児童が効率的に他者の考えを把握することができる点である。また、教師は児童の考えをマクロの視点で俯瞰的に掌握することで全体への支援につなげることができる。さらに、ミクロの視点で共有した入力内容を基に個の児童の考えを取り上げ、教師が問い返しによって掘り下げていくことで学びを深めることができる。

●●さんの「豆を折り紙で代用する」というアイデアがすごいと思った。

●●さんがハンデをつけるという意見を発表していた。



●●さんが「そこはどうするの？」と聞いたときテキパキと答えていたのが良かった。

【活用したソフトや機能】

・学習支援ソフトのコメント共有機能